

個別最適な学びの実現に向けた 指導の工夫

～ワンルーム習熟度別授業～

東京都中学校理科教育研究会

令和6年度 学習指導・評価委員会

府中市立府中第五中学校 若木 洋

荒川区立第三中学校 小谷野 美智子

瑞穂町立瑞穂第二中学校 臼杵 英俊

港区立三田中学校 小島 康平

八王子市立打越中学校 櫻井 優

豊島区立明豊中学校

練馬区立開進第一中学校

新宿区立新宿西戸山中学校

大田区立安方中学校

北区立浮間中学校

松本 和記

龍崎 宗子

小野寺 卓博

柳 由人

大見山 大輝

1. はじめに

- ▶ 令和5年度まで 主体的に学習に取り組む態度の評価の研究
 - 「一枚ポートフォリオ」
 - 「二次元ルーブリック」
 - ▶ 課題⇒ 指導方法の工夫
- 
- ▶ 令和6年度から 個別最適な学びの研究

個別最適な学びに注目した理由

学習指導要領総則（平成29年告示）より

- ▶ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得
- ▶ 学習の遅れがちな生徒への特別な配慮

学習指導要領総則（平成29年告示）

- ▶ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得
- ▶ 学習の遅れがちな生徒への特別な配慮

一斉授業



- ・その他の学習形態の導入
- ・習熟の程度に応じた指導
- ・興味関心に応じた課題学習
- ・理解の状況に応じた課題学習
- ・補充的・発展的な学習

⇒ **個に応じた指導**

学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に関する参考資料（令和3年3月版）

- ▶ 支援が必要な子供への重点的な支援
- ▶ 特性や学習進度等に応じて指導方法などの柔軟な提供・設定
- ▶ 「**指導の個別化**」



学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと共同的な学びの一体的な実現に関する参考資料（令和3年3月版）

- ▶ 興味関心、キャリア形成の方向性等に応じ
学習活動や学習課題に取り組む機会を提供

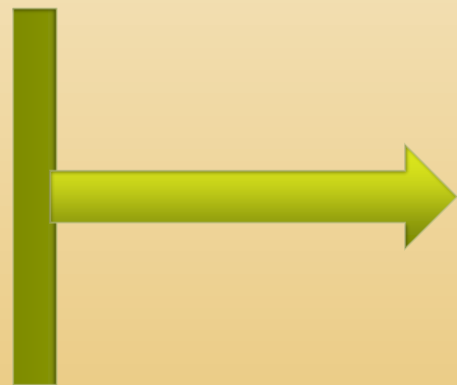
- ▶ 「**学習の個性化**」



学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと共同的な学びの一体的な実現に関する参考資料（令和3年3月版）



「指導の個別化」



「個別最適な学び」



「学習の個性化」

本研究のフォーカス

学習内容の習熟の程度に応じた指導

- ▶ 生徒の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導
 - ⇒ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること
- ▶ 生徒自身に学習する内容を決めさせる
 - ⇒ 応用・発展的な学習を促す

2. 仮説

- ▶ 生徒が自らの理解度をもとに学習活動や学習課題を選び取り組むことで、指導の個別化と学習の個性化が図られ、個々の資質・能力を伸ばすことができるであろう

新たな学習形態

ワンルーム習熟度別授業



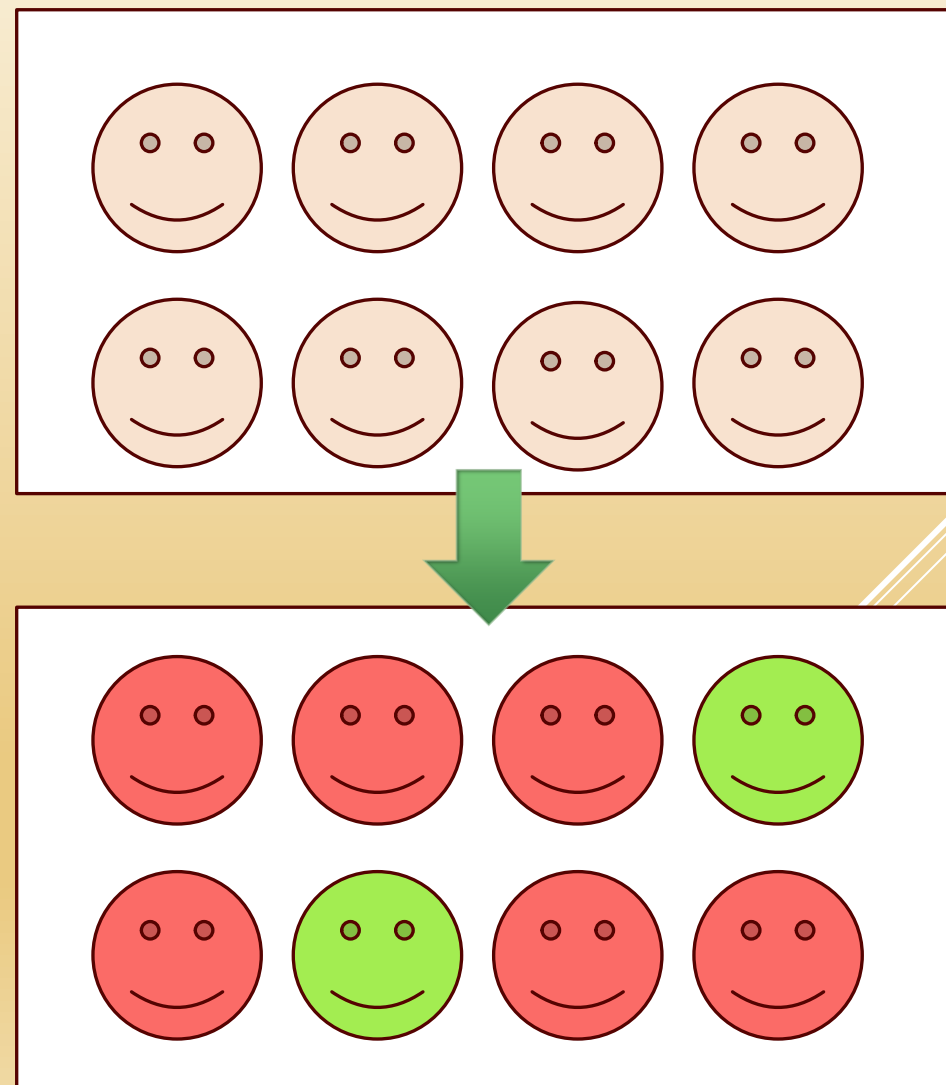
3. 研究方法と内容

(1) ワンルーム習熟度別授業とその指導方法

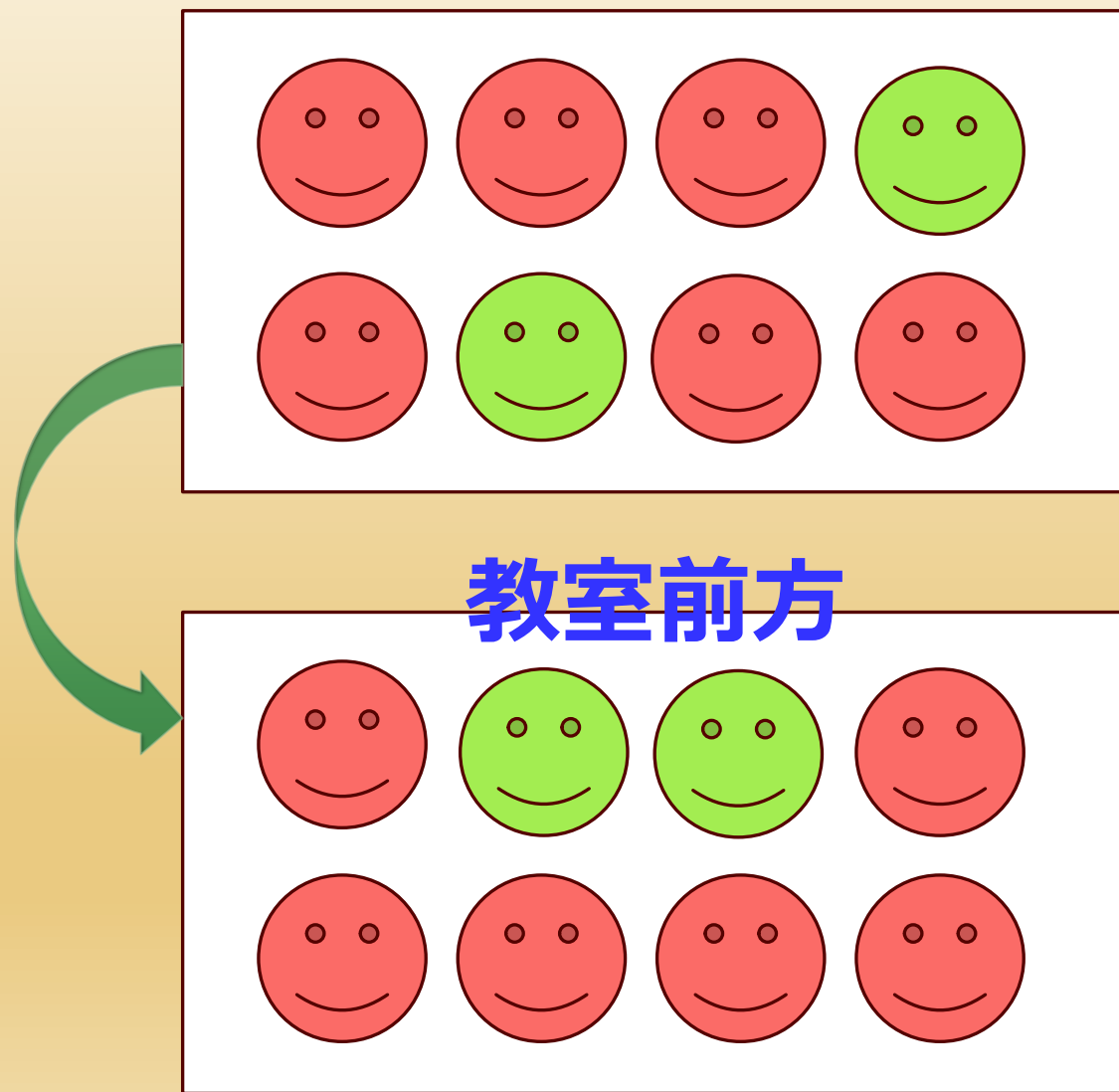
1つの教室でそれぞれの理解度をもとに学習活動や学習課題を生徒に選択させて行う授業

3. (1) ワンルーム習熟度別授業とその指導方法

一斉授業後、
生徒が授業内容を振り返り、
学習内容を十分理解できてい
れば**発展グループ**
まだ理解ができていなければ
基礎グループを選択



3. (1) ワンルーム習熟度別授業とその指導方法

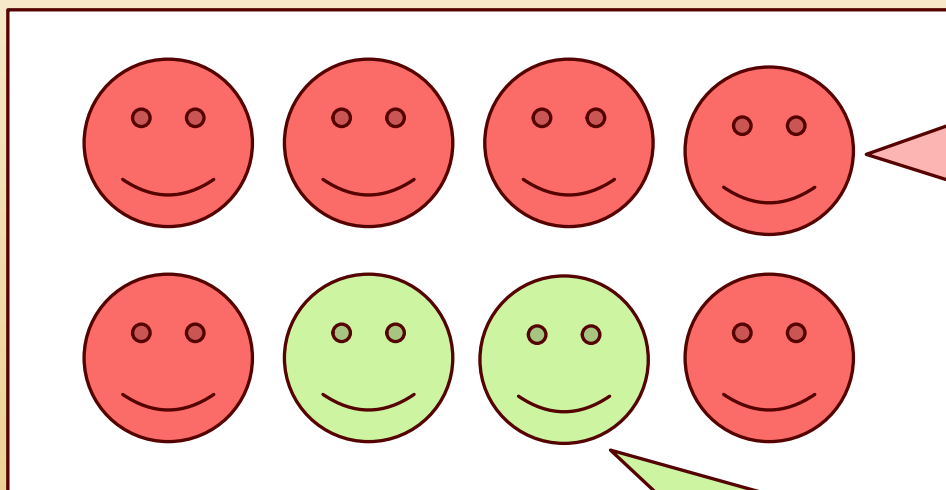


席の移動

発展グループは後ろに

基礎グループは前に

3. (1) ワンルーム習熟度別授業とその指導方法



発展グループ

- ・ 教師が事前に用意した応用問題
- ・ ワークの問題を解く
- ・ タブレットで興味があることを調べる
- ・ タブレット学習

基礎グループ

- ・ 理解できなかったことを教師がもう一度説明する
- ・ 生徒は質問したり、基礎問題を解いたりする

3. (2) 研究授業

- ▶ 1 回目 講義形式
- ▶ 2 回目 実験形式
- ▶ 3 回目 実験形式

3. (3) アンケート

- ① ワンルーム習熟度別授業は一斉授業と比べるとわかりやすいか
- ② これからもワンルーム習熟度別授業を続けてほしいか
- ③ ワンルーム習熟度別授業で出せれる課題は解決できたか
- ④ コースを選ぶとき、どちらのコースにするか悩むときはあるか

3. (3) アンケート

- ⑤ コースを選ぶとき何を基準に選んでいるか
- ⑥ 自分で学習内容を選ぶことでやる気が出るか
- ⑦ 基礎コースを選んで、感じたことを選んでください
- ⑧ 発展コースを選んで、感じたことを選んでください

4. 実践内容（1）研究授業

1回目 講義形式



- ▶ 単元 2年生 化学変化と原子分子 化学反応式の立て方
- ▶ 11名が基礎グループ、23名が発展グループを選択
- ▶ 基礎グループはもう一度説明を聞く、基礎問題を解く
- ▶ 発展グループは用意したプリントの応用・発展問題に取り組む
- ▶ 当日の授業のようす

4. 実践内容（1）研究授業

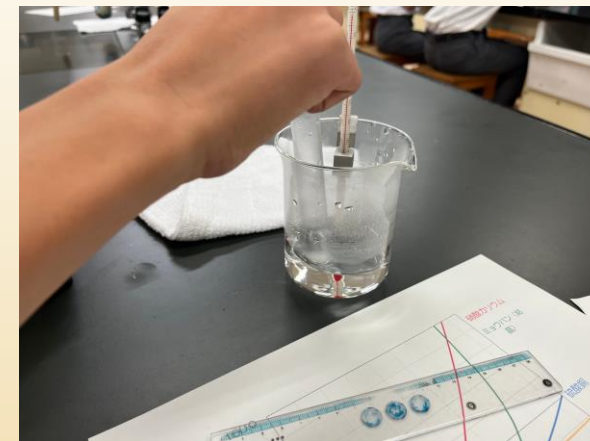
2回目 実験形式



- ▶ 単元 1年生 物質のすがた 白い粉の区別
- ▶ 6名が基礎グループ、29名が発展グループを選択
- ▶ 前時で実験計画を立てる際にワンルーム習熟度別授業を展開
- ▶ 本時では全員自分で考えた実験方法で実施
- ▶ 基礎グループは教員の重点的な机間指導のもとで実験を実施
- ▶ 発展グループは各自で実験を実施

4. 実践内容（1）研究授業

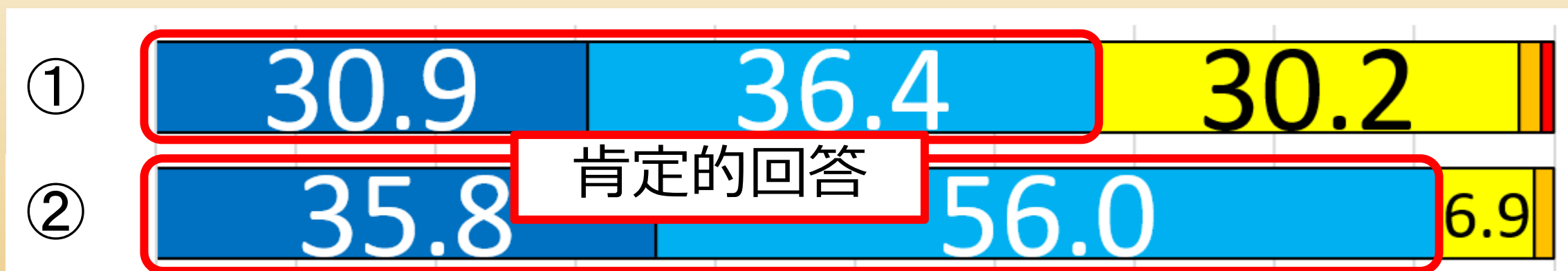
3回目 実験形式



- ▶ 単元 1年生 水溶液の性質 溶解度
- ▶ ○名が基礎グループ、○名が発展グループを選択
- ▶ 実験の最初に水に溶けている1つの物質は何かを再結晶で特定する実験を実施
- ▶ 基礎グループは再実験を実施
- ▶ 発展グループは水に溶けている2つの物質が何かを再結晶で特定する実験を実施

4. 実践内容（2）アンケート

▶ ワンルーム習熟度別授業の有用性に関して

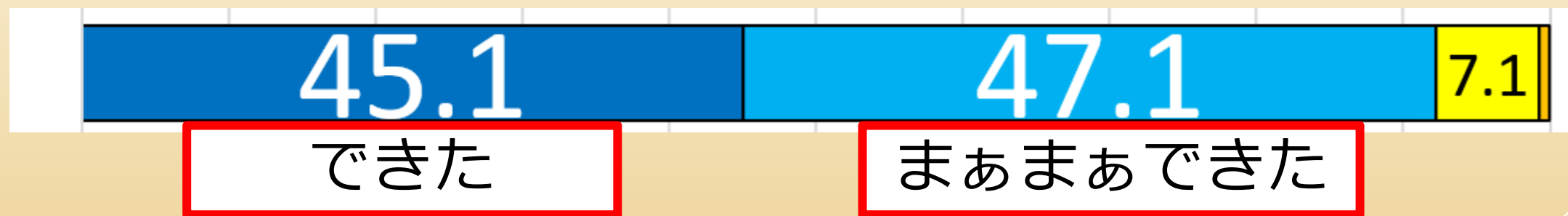


- ▶ 「①ワンルーム習熟度別授業は一斉授業と比べるとわかりやすいか」では**半数以上の生徒が肯定的意見**であった
- ▶ 「②これからもワンルーム習熟度別授業を続けてほしいか」でも**肯定的意見は9割**であった

多くの生徒が有用性を実感

4. 実践内容（2）アンケート

▶ 基礎的・基本的な知識の習得



- ▶ 「③ワンルーム習熟度別授業で出される課題は解決できたか」では**9割以上の生徒が課題を解決**できた



- ▶ **基礎コースを選択した生徒も基本的な学習課題を終えられたという実感**

4. 実践内容（2）アンケート

▶ 自分に合った学習方法・学習課題の選択



▶ ④からワンルーム習熟度別授業の基礎・発展の選択に関しては悩む・悩まないの生徒は同じくらいの割合



▶ 課題によって個人で自分の学習状況から学習方法・学習課題を考えている

4. 実践内容（2）アンケート

▶ 自分に合った学習方法・学習課題の選択



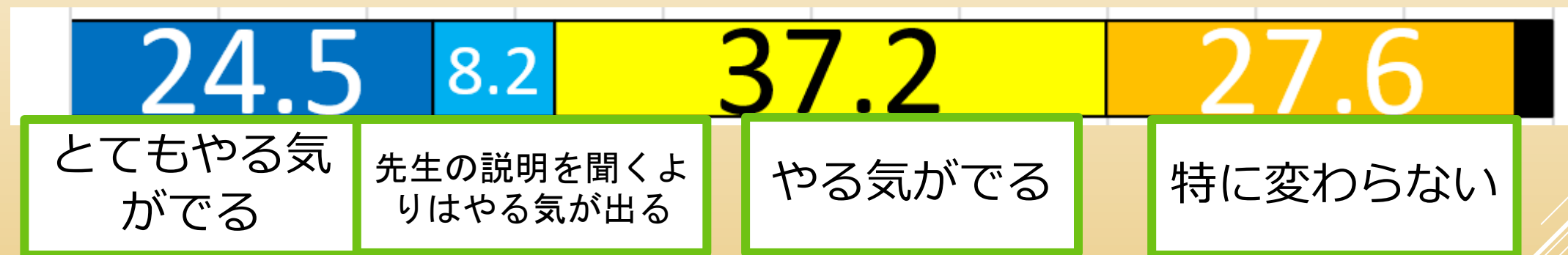
- ▶ ⑤からコースを選ぶ基準として「**自分の意志**」と「**課題の難易度**」と選択した生徒が9割超



- ▶ **学習する方法を自分で決めようとしている**

4. 実践内容（2）アンケート

▶ 自分で選択することでやる気が出るか



▶ ⑥からやる気が出ると答えた生徒はおよそ6割



▶ ワンルーム習熟度別授業によって意欲的に学習に取り組むことができる

4. 実践内容（2）アンケート

- ▶ 基礎コースの生徒の感じていること
- ▶ 72.7%の生徒が「もう一度説明が聞けるから理解できる」
82.3%の生徒が「わからないところがはっきりする」



- ▶ わからないことが明確になり、繰り返し学習することで理解につながると感じる生徒が多くいた

4. 実践内容（2）アンケート

▶ 基礎コースの生徒の感じていること

▶ 42.9%の生徒が「質問しやすい」

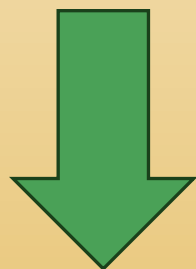


▶ 通常の授業より質問がしやすくなった

4. 実践内容（2）アンケート

- ▶ 発展コースの生徒の感じていること

- ▶ **33.9%の生徒が自分で学習を選択した**



- ▶ **主体的に学習に取り組む意欲が高まった**

4. 実践内容（2）アンケート

- ▶ 発展コースの生徒の感じていること
- ▶ **39.5%の生徒が簡単な問題の説明を聞かなくてすんでよかった**

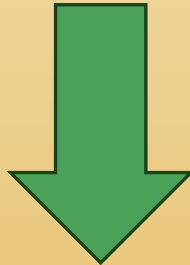


- ▶ **個人で課題に取り組む時間が生まれている**

4. 実践内容（2）アンケート

▶ 発展コースの生徒の感じていること

▶ **たくさんの問題を解くことで学習を理解しようとする生徒と、難しい問題を解いて応用力をつけたい生徒がどちらも4割**



▶ **到達度によって自分の目標を選択**し、課題に取り組んでいることが考えられる

4. 実践内容（2）アンケート

- ▶ 発展コースの生徒の感じていること
- ▶ 58.4%の生徒が「友人と相談しながら解くことができてよかった」



- ▶ 個人で学習するだけでなく、協働的に学習課題を解決しようとするなど、**学習方法を選択し、調整している**ことがうかがえる。

5. 成果と課題（1）成果

▶ 研究授業1回目 講義形式

- ▶ 基礎グループは教師が理解できたかどうか、表情を見ながらもう一度説明することができた
- ▶ 生徒の質問が多くなり、教師が生徒のつまづきを重点的に指導することができた
- ▶ 発展グループは個人で課題に向き合ったり、複数で協力して応用問題を解いたりなど、自主的・協働的に学習に取り組んでいた
- ▶ その後の小テストでいつも5割以下の正答率の生徒が複数人5割以上正答していた

5. 成果と課題（1）成果

▶ 研究授業 2 回目 実験形式

- ▶ 生徒が個別に実験計画を作成したため、主体的に実験に取り組むことができた。
- ▶ 実験操作や結果の記録、考察など個人で行うことで、実験レポートを自分の言葉で作成できるようになった。
- ▶ 考察の具体的な記述から実験の目的を理解していることを見とることができた。

5. 成果と課題（1）成果

▶ 研究授業 3 回目 実験形式

- ▶ 基礎グループでは自身の解釈を再確認する生徒や新たな課題を見出し、自らの予測について探求する学習の過程が見られた
- ▶ 溶液を冷却し、再結晶するときの析出温度と、加熱し結晶が溶解するときの温度を比較したり、冷却の仕方によって結晶の形に違いがあることを見出すなど、個々の探求度に応じた課題の解決が見られた

5. 成果と課題 (2) 今後の課題

- ▶ **ワンルーム習熟度別授業で行う実験内容の精査
(安全の確保・理解しやすい操作方法)**
- ▶ **主体的に学習に取り組むための学習方法についてのアドバイス**

5. 成果と課題 (2) 今後の課題

- ▶ 生徒に劣等感を感じさせないような言葉かけなどの配慮が必要である
- ▶ 学習方法を友達に合わせてコースを決めることがないように、自主的に自分に合ったコースを選択させるよう促すことが必要である。
- ▶ 協働的な学びの研究も進めていき、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指す必要がある

ご清聴ありがとうございました。

令和6年度 学習指導・評価委員会